

白虎隊の「義」伝えたい

白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 15 号

Vol.15 2025年4月

白虎隊の「義」後世に



目次

本年度をふり返って	飯沼一元…………… 2
飯沼貞吉長州滞在説の物証発見論文	
	飯沼一元…………… 3
白虎隊士飯沼貞吉の回生第3版の企画	
	飯沼一元…………… 4
会津戦争前後の遺体埋葬実態解明論文	
	飯沼一元…………… 5



発行者 白虎隊の会

寄稿1：美祢・萩・下関を訪ねて	
	森川敬寿…………… 6
寄稿2：飯沼会長と森川会津支部長をお迎えして	
	吉井克也…………… 7
下関支部だより	吉井克也…………… 8
本部便り	飯沼一元…………… 9
会員名簿……………	10-11
編集後記	飯沼一元…………… 12

今年度をふり返って

会長 飯沼 一元

一、はじめに

ウクライナとパレスチナ戦争に加え貿易・地球環境に迄、トランプがカードを次々と切り始めました。世界は悪い方向への逆行転を加速しています。根本原因は『利己』を優先し『利他』を排除する三人にあります。この重要な時期に我が国の政治は混迷を極めるばかり。

本会の目的は白虎隊の『義』を後世に伝えることです。『義』とは「正義」であり、「利他」に通じます。

二、本年度の事業

念仏を唱えるだけでは何も始まりません。そこで昨年に続き、論文投稿に注力しました。

『貞吉の長州滞在説の物証発見と諸説の解明』

これは、長年の懸案事項でした。会津では「物証なしのでつち上げ」とする御仁が複数いることは十年前から知っていました。また、「恩愛の碑」の序幕の際にNHKから「物証がありますか?」との問い合わせがあり、「限りなく近い証拠があります」と答えたところ、取材なしでした。

物証探しの為、昨秋に山口を訪問し吉井さんをはじめ多くの方から御支援を頂きました。

「物証」は榎崎家の「除籍謄本」でした。そし

て「貞吉長州連行」の決め手は佐々並と岡八十

吉でした。この論文は会津人群像50号に掲載され本年八月に発刊されます（P3参照）。

『会津戦争前後の遺体埋葬実態解明』

会津の「長州憎しの三点セット」は、①朝敵とされた理不尽、②戦後六カ月放置された遺体埋葬処理、③その後の斗南移封で武士が町から追ひ払われ「会津魂と文化」が散逸した、です。

ところが、七年前に『会津戊辰戦死者埋葬の虚と実』という本が会津で出版され、「②の屈辱的な埋葬は事実誤認である」という新説が全国に拡散しました。私は「馬鹿げた話」として放置しておきましたが、会津の識者の中から本論の賛同者が現れ、従来の歴史認識を見直す動きが広まりました。

そこで、『虚と実』は間違いであることを実証するため、急遽前記タイトルの論文を執筆し投稿しました。詳しくはP5参照。

「榎崎頼三ゆかりの地」と「恩愛の道」碑

「物証」が発見されたことで、白虎隊の会として右の記念碑と説明板の設置を企画し、準備を進めています。設置場所は前者が萩市河添で後者は美祢市の榎崎屋敷跡近くを予定しています。

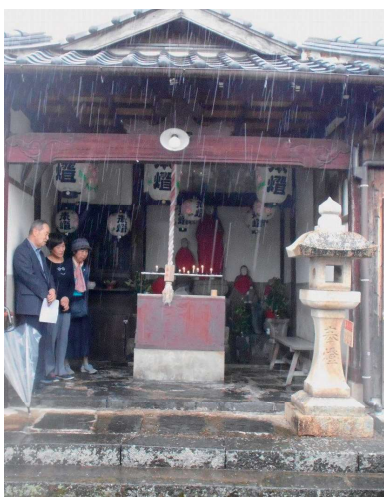
『白虎隊士飯沼貞吉の回生第3版』の出版企画

「物証」の発見で2013年に発刊した『第2版』の内容の一部を改訂する必要が生じました。

また、歴史の記録を永久保存し後世に残すために、国会図書館デジタル・コレクションに収録してもらうことにしました。第3版はこれらの条件を満たし、且つ、紙の本の在庫を持たず、出版社に発注すれば1週間程度で入手できるようにします。なお、同サイトは誰でも無料で利用でき、例えば「飯沼貞雄」というKWを入力すれば膨大な資料が見つかり自宅のプリンターで複写できるのでとても便利です。

起稿文2件

会員のご協力により、寄稿文2件を掲載できました。P6とP7をご覧ください。



萩市唐樋町の中央地藏堂にて奥に『忠臣義士の白虎隊自刃の図』がある。

会報は本会会員を繋ぐ欠かすことのできない絆です。下関支部便りを加えてまとめました。ご協力有難うございました。以下のページに内容を紹介します。

飯沼貞吉長州滞在説の

物証発見と諸説の解明

会長 飯沼 一元

一、はじめに

筆者は足掛け20年の調査結果、貞吉長州滞在説は史実であると確信し、12年前に『貞吉本』を出版した。理由は、高見家や榎崎家の証言もあるが、①自刃失敗で死に場所を探していた貞吉が立ち直り②逋信省に入省し電信の道一筋に生きた理由が、この邂逅にあることを確信したからである。

一方、この説は「物証なしのでっち上げ」と公言する人もいる。この説は単に貞吉個人の問題ではない。白虎隊は会津観光の目玉である。会津人としては長州の世話になって欲しくないし、一方の長州人としては貞吉を養育したことを美談として、会津との友好を進めたいという思惑がある。

二、実証方法

筆者は榎崎家ご子孫に対面し証言内容を再確認し、裏付資料を入手する一方で、除籍謄本等の公的文書との照合を進めた。その結果、証言内容は除籍謄本と矛盾しないことを確認した。

三、会津から榎崎屋敷に至る全行程の実証

会津発は明治元年10月24日、美祢着は12月中旬であり、この間の約60日間全行程を解明できた。ここで重要なことは頼三の一人娘マツの居

宅は萩の佐々並にあり、貞吉の監視役として同行させた頼三の部下岡八十吉宅とは佐々並川を隔てて約600mであることが判明したことである（萩の中原正男氏）。

四、「密書」の解明

榎崎マツのひ孫松葉玲子さんの証言には、頼三が貞吉の母親宛に「当方で預かっているから心配無用」という趣旨の密書を送ったとあり、加えて「此の事は誰にも言ってはいけない」とある。この密書と他言無用が何故重要且必要だったのか？が最後の謎で本論はこの解明に成功したのである。この謎の解明は出版をお楽しみしに！

五、諸説の解明

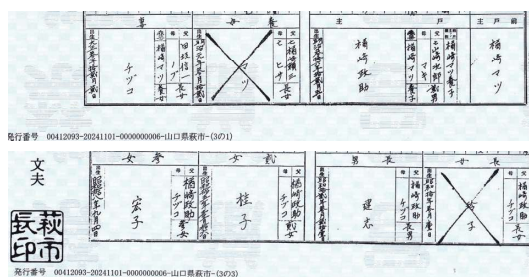
会津で出回っている諸説とは東京の「護国寺謹慎説」である。「頼三の連行」とは定期的に三ヶ月の差があるので両立することはあり得ない。根拠は護国寺人別帳に貞吉名が記載されていることである。護国寺には会津藩士約3千人が謹慎したことは事実である。会津で護国寺護送を担当したのは小倉藩で、その送り出しリストにも貞吉名がある。このリストで興味深い点は、貞吉の父飯沼時衛（青龍隊中隊頭）と貞吉がペアで掲載され、白虎隊士は貞吉以外に一人も掲

載されていないことである。つまり、このリストは青龍隊の護送リストで、貞吉は時衛が仕組んだ「替え玉」である。詳しくは本を！。

六、出版本の概要と利用

本稿は約50ページ、図28枚、引用文献27の長文である。発刊は八月予定で歴史春秋社の会津人群像50号となる。

なお、この本は今秋開催予定の二件の除幕式にお集まりの皆さんに白虎隊の会から無料進呈する予定である。



榎崎家の除籍謄本。上段右端にマツ、その左が養子榎崎政助。下段に政助の子供松葉玲子さんと弟武志さんが記載されている。この謄本はこれらの4人が同居していたことを証明する公文書である。

七、むすび

長年の懸案事項が遂に達成できた裏には関係者の協力がある。松葉玲子さんは現在九〇才で頑張っておられる。萩にお住いの山本貞壽先生には是非序幕式に参加して頂きたいと祈念しています。

白虎隊士飯沼貞吉の回生

第3版の出版企画

会長 飯沼 一元

一、はじめに

この本（以下貞吉本）は筆者が7年がかりで書き上げ2013年に出版した。内容は貞吉の誕生から昇天迄の生涯を時系列的に綴った伝記本である。その中で、会津戦争後2年間の空白がある。貞吉がこの間何処で何をしていたのかの記録や伝承は飯沼家には一切ない。

貞吉本は全462頁の内、82頁を榎崎頼三との出会い以降の2年間に割いた。そして、以降は電信の話になるのだが、その切掛けが頼三が貞吉に手渡した福澤諭吉著の『西洋事情』である。つまり、この出会いが貞吉の生涯を決定づけた重要事件なのである。

二、物証論文で新たに判明したこと

頼三が貞吉を長州に連行し、榎崎屋敷に住ませて勉学の機会を提供した経緯の大部分は間違いが無かったが、細部で幾つかの思い違いがあった。その一つが佐々並の榎崎家自宅と美祿の榎崎屋敷の関係である。詳細は第3版で。

また、新たに追加すべき事件も出てきた。これが「恩愛の道」である。詳細は第3版で。

三、埋葬論文で新たに判明したこと

次ページに埋葬論文の概要を示すが、この事

件は会津及び白虎隊にとって極めて重要であり、貞吉本に簡単に記載してある。だが、埋葬論文で詳細に再検討した結果、一部修正が必要になった。詳細は第3版で。

四、出版の方法

『貞吉本』は第1版を千、第2版を3千冊発行した。自費出版なので費用も結構かかった。一方、出版界ではこの10年でデジタル化の波を受け大きく変容した。その一つが電子出版である。紙の本よりも、持ち運びできる電子パッドで電車の中で本を読む方が便利とする向きも増えた。だが、紙の本の良さは依然として残る。そこで出版社はこれらの両方に対応できる「ペーパーバック」方式（呼び名は出版社によって異なる）を提供するようになった。この場合、読者が紙の本を購入注文すると約1週間で手元に届き代金は3千円程度となる。なお、これで「自叙伝」を出版する人が増えているという。第3版は「ペーパーバック」方式とする。

五、国会図書館への登録

国会図書館デジタル・コレクションは誰でも無料で利用できる大変便利なサービスである。例えば、KWに「飯沼貞雄」を入力し検索する

と530件ヒットする。該当資料を手元のプリンターで印刷もできる。

だが、貞吉本第2版は収録されていない為ヒットしない。従来からISBN（国際標準図書番号）付の出版物は国会図書館に登録（納本）する義務があり、貞吉本も納本してある。理由は紙本の自費出版の場合、デジタル化に費用が発生するからである。一方、国会図書館はデジタル化を推進しておりデジタル本の納本を推奨している。そこで、第3版はPDFデータを国会図書館に納入し収録してもらうように手続きする予定である。

これで第3版は国の管理の元に永久保管され誰でも閲覧・印刷できることになる。世界には歴史の重要論文が沢山ある。筆者の他の論文もいずれ国会図書館に残したいと考えている。



会津戦争前後の遺体埋葬実態解明

会長 飯沼 一元

一、はじめに

会津戦争は1868年8月中旬から同9月24日に会津が降伏する迄の約1カ月の戦争で、幕府軍の戦力は約9千、新政府軍は約5千と大規模で、明治政府の樹立を決定づけた内戦である。この戦争で会津藩は約3千人の戦死者を出した。本稿はこの膨大な遺体をどの様に処理し、弔ったかを、相前後して起こった他の6つの戦争と対比して解析したものである。

二、会津藩士遺体の埋葬3条件

終戦後遺体は約6カ月にわたり放置され、川には全裸の遺体が流れ、悪臭が立ち込め住民からの苦情が相次いだ。

その主因は新政府軍の在会津軍務局が①**埋葬地は罪人墓地に限定**、②**埋葬人夫は非人**（「人に非ず」とされた罪人等）に限定、③**墓標の禁止**という前代未聞の埋葬3条件を強制したからである。

三、会津藩民生局の対応

ここで、会津藩民生局（戦後処理担当局）担当に任命された**町野主水**及び**伴百悦**らの懸命な嘆願と機知に富んだ行動が展開される。対するは軍務局トップの**三宮耕庵**とその配下役人**久保村文四郎**である。

四、埋葬の実態は三段階で

埋葬は、**第一次西軍遺体の収集と埋葬**。**第二次白虎隊士の仮埋葬**、**第三次阿弥陀寺等への大規模仮埋葬の三段階**で実行された。詳細は本稿**五、東西局間の交渉のポイント**

第一次は西軍が会津に金を払って東西遺体の分別収集をさせ、自軍の遺体を西軍墓地に埋葬したもので交渉はない。

第二次では主水が急遽絵師に描かせた「**自刃の図**」を**白洲**（裁判所）に持ち込んで「**白虎隊の忠臣ぶり**」について熱弁。これに感動した**三宮耕庵**が、仮埋葬を特別に「**黙認**」した。

第三次では主水が話の分かる**三宮の自宅**を訪問し、現金千両の調達と西軍が調達した**非人**による埋葬作業の監督を伴百悦にさせる条件で軍務局内での黙認を引き出したのである。

六、会津以外の内戦における埋葬実態

本稿の筆者の目的の一つは「**埋葬許可3条件**」を出した「**犯人を解明**」することであった。この異常な埋葬条件は会津のみなのか？

このため、戊辰戦争で戦死者を多く出した**上野・白河・函館戦争**の戦死者埋葬実態を調査した。しかし、見当たらない。特に**白河口**では地本民の手で**東西分け**隔てなく埋葬されている。

そこで、**戊辰前の第二次長州征伐（四境戦争）**と**戊辰後の萩の乱**および**西南戦争**を追加した。結果は会津のような扱いは見当たらないどころか、西南戦争では西郷隆盛を中心に政府軍より丁寧な埋葬と供養が行われていたことが判明した。

七、結論

では会津藩士埋葬に異常な条件を指示したのは何処か？東京の新政府か？否在会津の軍務局である。では犯人は誰か？筆者は越前藩出身の久保村文四郎の単独犯と考える。

つまり長州ではない。なお、この後始末は後に伴が久保村に天誅を下して決着する（東松事件）。

下表は戊辰戦争前後の我国内戦における遺体埋葬処理状況の比較を示す。

図10 戊辰戦争前後の我国内戦における戦死者埋葬状況の比較											
番号	年月日 開始上、終了下	内戦の名称	戦場	埋葬許可 3条件	遺体放置 期間(月以内)	供養	戦死者数 (勝者)	戦死者数 (敗者)	敗者 軍隊名	供養碑	定例 慰霊祭
1	1866/06/07 1866/10/07	四境戦争	山口/広島	無	1	○	1000	3000	幕府軍	*桜山神社 *東行庵	○
2	1868/05/15	上野戦争	東京上野	無	1	○	0	200	彰義隊	戦死の墓	○
3	1866/07/14 1866/10/07	白河口 の戦い	福島県 白河	無	1	○	140	750	会津、 仙台他	戊辰の碑	×
4	1866/09/24 1866/10/07	会津戦争 (埋葬一次)	会津	無	1	○	200	3000	会津軍 他	西軍墓地	×
5	1868/08/23	会津戦争 (埋葬二次)	会津若松	有	4	○	0	19	白虎隊	白虎隊 19士の墓	○
6	1866/09/24 1866/10/07	会津戦争 (埋葬三次)	会津	有	6	○	200	3000	会津軍 他	阿弥陀寺	○
7	1869/05/18 1866/10/07	函館戦争	北海道 函館市	無	1	○	300	1000	榎本隊	雪血碑	○
8	1871/11/06 1866/10/07	萩の乱	山口県 萩市	無	1	×	0	8	前原らの 反乱軍	なし	×
9	1877/09/24 1866/10/07	西南の役	鹿児島県 鹿児島市	無	1	○	7000	7000	西郷の 薩摩軍	南洲墓地	○
*長州藩の碑											

初めての長州旅行

白虎隊の会会津支部 森川敬寿

令和6年8月、飯沼会長より山口県への旅行に誘われました。『はい、行きます』と即答しましたが、以前から一度は行って見たい場所だったからです。出発予定日は10月31日に決まり、それから待ち遠しい日々を送りました。

当日会津若松駅6時36分発の電車に乗り一路東京へ。東京駅で飯沼ご夫妻と合流、新幹線で新山口駅を目指しました。会津若松を出てから約8時間後新山口駅に到着。

157年前長州兵が約1300km以上離れた会津迄歩いて60日以上掛かった筈なのになった8時間で着いてしまいました。

ここで飯沼一元夫人楊子さんのご友人島幸子さん、白虎隊の会下関支部長吉井克也氏と合流し、まず美祢市役所へ向かい篠田洋司市長、南順子教育長、千々松正幸局長を表敬訪問し暫し歓談しました。

次に飯沼貞吉が匿われていた美祢市檜崎屋敷跡の「恩愛の碑」記念碑へ向かいました。静かな山間にひっそりと建っていました。

そこから一路今夜の宿泊地『ホテル西長門リゾートホテル』へ向かいましたが、ここで思わぬハプニング。夕食が準備されておらず、急遽10km先のコンビニに買い物ドライブし、部屋に戻って弁当で乾杯。一日目の予定を終了しまし

た。

二日目

レンタカーで明倫学舎を目指し、中原正男氏の案内で学舎を見学しました。ここは江戸時代日本三大藩校「水戸弘道館、萩明倫館、会津日新館」の一つ萩藩校明倫館の跡地に建てられた旧明倫小学校の建物を萩明倫学舎として改修したものです。現在、元明倫館の正門だった南門は堂々たる立派なものでした。

次に訪れたところは萩市唐樋町にある中央地蔵堂。ここにはお堂の中に『忠臣義士』の石版画（白虎隊士自刃の図）が飾られています。町内の方々が守って下さっているとのこと。

昼食は白虎隊の会会員の原田靖子さんにお世話になり、その後抹茶を立ていただきました。

次に吉井支部長のご案内で下関市功山寺万骨塔を訪ねました。ここには幕末の志士たちの名前が刻まれた霊石を全国各地から集め、大きな土饅頭の下部にはめ込んだもので、自刃した白虎隊士名を刻印した『白虎隊霊石』と白虎隊の会が寄進した『山川健次郎霊石』がありました。

その後、武家屋敷が並ぶ町中や現在田中絹代記念館になっている逋信省下関郵便局を車中より見学しながら今夜の宿になる「下関市営国民宿舎海峡ビュー」に到着。吉井支部長ご夫妻、

渡部副支部長はじめ大勢の皆様と夕食を共にし、大歓迎をして頂きました。（感謝）

最終日、前日からの雨が降り続き、下関市内は土砂崩れも発生したようで行き止めの道路もあり、あちこちで車が大渋滞でした。

福岡空港発の飛行機も90分遅れで離陸しました。今回は初めての山口旅行でしたが、各地で皆様の温かい御もてなしを受け感謝して居ります。今後もよろしくお付き合いをお願いいたします。



下関市功山寺万骨塔白虎隊と山川健次郎霊石前で
2024年11月1日。左筆者、右飯沼会長

飯沼会長と森川会津支部長を

お迎えして

下関支部長 吉井克也

十月三十一日、飯沼会長が森川会津支部長、奥様の楊子氏とその友人の島幸子氏同伴の上、久しぶりに山口県に御来県されました。その目的の一つは、「飯沼貞吉長州養育説」を強化するための根拠となるものを見つけないということでした。櫛崎頼三ご末孫の松葉玲子さんの除籍簿や貞吉が美祢市小杉に移動する途中、滞在したと言われる萩市佐々並に残る貞吉の足跡、美祢市の人々が、貞吉の通った道を「恩愛の道」と名付けて大切にしてくれていること等、新しい発見も多々あったとお聞きしておりますが、その成果は、「会津人群像」に掲載されるので、楽しみにしております。

【十月三十一日】

新山口駅前で合流し、まず、美祢市長表敬訪問に向かう。現篠田市長は、美祢市小杉に「恩愛の碑」を建立した時の副市長であり、この事業推進に当たり、全面的にご支援を頂いた方である。市長になられてからも、恩愛の碑整備活動には、草刈機を担いで毎年参加されている。同席された南教育長もこの地で営まれた、長州藩士櫛崎頼三と白虎隊士飯沼貞吉の人間愛の物語に深く共感され、教育委員会を挙げて、恩愛の碑の護持に努めて頂いている。しばし、恩愛

の碑除幕式当日の思い出話に花が咲いた。その後、小杉に直行したが、飯沼三兄弟が記念植樹された「会津見知らず柿」がたわわに実を付けて出迎えた。高見フサロ伝や櫛崎屋敷の様子、恩愛の道などについて説明し、御一行は、宿泊場所の北長門リゾートホテルに向かわれた。

【十一月一日】

角島大橋を渡り、角島灯台を見た後、萩にむかわれる。藩校明倫学舎で、「白河踊り」の発掘者である中原正男氏と合流、氏のガイドで、唐樋の地藏堂（白虎隊自刃の石版画）や大書院にある奥平謙輔の墓（山川健次郎養育）を参拝される。その間、地藏堂の護持に長年、尽力を頂いている原田靖子氏とも再会、山本貞寿先生の記念館？（原田氏宅）を訪問。さらに萩市役所で目的の一つ、櫛崎家ご末孫に關係する書類を入手の後、下関に向かわれる。

下関では、下関歴史博物館で吉井と合流し、館長にあいさつした後、万骨塔に参拝された。この塔には、昭和八年の建立当初から、白虎隊十九士と廣澤安任の霊石が安置されているが、平成二十三年に、飯沼一元氏と当時の長府博物館友の会の会長金田満男氏のご尽力により、山川健次郎の霊石が安置された。次に飯沼貞吉初任

の地（現田中絹代文化館）を訪れたが、夕闇が迫り、外観のみを眺めて、交流会場の「下関海峡ビュー」に向かった。

【交流会】

交流会には、御一行四名と下関支部八名、さらに、飯沼さんにぜひ会いたいと、急遽萩から来られた山影司氏の十三名で行いました。再開を喜び会うとともに、この度の訪問の目的、本部や支部の状況報告、「貞吉長州養育説」に対する様々な反響など、具体的に今後の活動に向けて意義ある情報交換と交友の場になりました。締めくくりに、河本下関支部事務長のリードで「花の白虎隊」と「愛しき日々」を合唱、再開を約束して会を閉じました。



下関支部便り

支部長 吉井克也

一、会津訪問（三月三十一日～四月一日）

昨年度に続いて本年度も、下関支部は充実した一年になりました。何よりも昨年度御来県された会津会前幹事長山内裕正氏・会津藩士子孫会会長北原秀光氏、さらには滝沢洋之先生からも、会津民俗研究会大会へのご案内を頂き、支部長夫妻と事務長夫妻の四名が、久しぶりに会津を訪問しました。会津では、北原会長さんのご案内で坂下の法界寺の会津藩町野家・南摩家殉難碑と法界寺の中野竹子首塚にお参りし、会津女性の矜持に感動。併せて坂下の戦闘における両軍の戦没者を慰霊しました。また、午後からは、福島県立博物館で開催された滝沢先生主催の会津民俗研究大会に出席し、会津の奥深い民俗文化を堪能いたしました。夕方には、交流会にお招きを頂き、会津の多くの方々と懇親を深めることができ、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。温かなおもてなしに感謝！

二 飯沼一元氏御一行御来県（十月三十一日～十一月二日）これについては別紙掲載

三 神戸岩蔵墓・恩愛の碑の整備活動

今年も下関市、美祢市、萩市からご参加を頂

き、墓参道も、櫛崎屋敷跡一帯も短時間で整備を終えることができました。八月二日の神戸岩蔵命日には、墓参の後、久しぶりに研修会を行い、迫りつつある南海トラフ地震にそなえて、大末和廣博士による講話をメインに、下関支部一〇周年記念事業の一つとして、今までにテレビに取り上げられた下関支部の活動を一枚のDVDにまとめたものを視聴しましたが、一同感慨深いものがありました。更に支部長と事務長による会津訪問と長岡・小千谷探訪の報告もあり、とても充実した一時になりました。

四 主な出来事

三・三一～四・二 下関支部会津訪問
五・八 神戸岩蔵墓参道筍切り

五・三十 東亜大学ひまわり学習会恩愛の碑訪問（十名）

六・十五 神戸岩蔵墓・恩愛の碑整備活動

八・二 神戸岩蔵墓参と下関支部研修会

○講師 大末和廣博士「演題 昭和17年8月の周防灘台風による高潮被害」その他

十・十一 恩愛の碑周辺草刈

十・二十 赤間関街道リレーウォーク第2ス

テージ45名 恩愛の碑参拝

十・三十一～十一・二 飯沼一元氏ご一行ご

来県

十一・十一 恩愛の碑記念樹会津見知らず柿

収穫：渋抜き後、関係者に配る

三・七 下関支部総会予定

五 おわりに

「会津見知らず柿」を初めて収穫することができました。下関支部もこの記念樹に負けないよう、「会津・長州の友好」という立派な実をつけたいものです。



会津坂下：中野竹子首塚

本部だより

1. 会員

2024年度の新入会員は0名（昨年比（－2））でした。逝去者は0名、退会者10名で名簿から削除しました。その結果、2025年3月末現在、名簿登録会員数は91名（－10）となりました。内訳は一般62（－10）、特別会員（役員を含む）29（－1）。地域別内訳は会津19（－1）、東京33（－3）、下関10（－2）、京都5（－0）、長崎2（－1）、仙台5（－1）、その他17（－4）名となりました。

2. 活動

主な活動実績および活動予定は表に示すとおりです。

年月日	主な活動（予告を含む、青字は本誌に掲載）
2025/11月13日	（予定）萩と美祢に白虎隊記念碑設置序幕
2025年8月24日	（予定）発刊『物証論文』および『埋葬論文』（会津人群像No50）
2025年9月24日	（予定）秋の飯盛山墓前祭参加
2025年4月24日	（予定）春の飯盛山墓前祭
2025年4月16日	（予定）会誌第15号発行
2025年4月11日	（予定）会津美里町訪問
2025年4月2日	（予定）年次総会（インターネットで）
2025年3月30日	投稿『会津戦争前後の遺体埋葬実態解明』（会津人群像No50）
2025年2月26日	投稿『白虎隊士飯沼貞吉の長州滞在説の物証発見と諸説の解明』（会津人群像No50）
2024年12月27日	発刊『初代会津会津会会長飯沼一省と都市計画』（会津人群像No49）
2024年11月1日	山口県下関市訪問および白虎隊下関支部と交流会
2024年10月31日	山口県美祢市および萩市訪問
2024年8月20日	発刊『会津本郷焼電信用碍子と我が国の通信近代化』（会津人群像No48）

3. 決算報告

今期は約22万円の黒字となり、剰余金は約190万円となりました。
ご寄付を頂いた方に感謝申し上げます。

白虎隊の会		貸借対照表		単位（円）	損益計算書			単位（円）
資産の部	1,903,378	負債の部		0	収入の部		支出の部	
現金及び預金	1,903,378	未払金		0	会費	211,500	HP管理	0
未収入金	0	負債の部合計		0	寄付	66,000	会誌発行	50,655
		前期繰越残高	1,679,126		書籍代	12,500	広告費	40,000
		今期損益金	224,252		会報売上	33,352	説明版設置	0
		次期繰越残高	1,903,378		助成金	0	通信費他	8,445
資産の部合計	1,903,378	負債純資産合計	1,903,378				今期損益金	224,252
会計監査	令和7年3月31日現在				合計	323,352		323,352

会計監査

令和6年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和7年3月31日 会計監査役 森川 敬寿

4. 2025年度の計画

新規会員獲得目標3名、総事業費は90万円を予定。

- 萩市に「檜崎頼三ゆかりの地」記念碑を設置し序幕（飯沼・中原・佐内他）
- 美祢市檜崎屋敷跡近くに「恩愛の道」記念碑を設置し序幕（飯沼・吉井他）
- その他、会津美里町電信用碍子記念碑準備等（飯沼・石田・森川）ほか

白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、17名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで、会津の教え、を健気にも最後まで守り通しました。

会津の教え、とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇国への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないのでしょうか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画 の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同
文責 発起人代表 飯沼一元

《編集後記》

ウクライナとパレスチナに加え戦争に加え貿易・地球環境にまで、トランプがカードを次々と切り始めました。先の世界大戦で7,000万人もの命が失われた反省のもと、100年かけて自由と平和を希求してきた世界に対して、歯車を逆回転させる動きが加速しています。『利己』を優先する限り平和は実現しません。

白虎隊の会は“義”を旗印に世界平和を求めて活動します。“義”は『利他』に通じます。理不尽な振る舞いを断じて許すことはできません。

私たちは先人の多くの犠牲と先人が残した知恵の上に生きています。

「ならぬことはならぬ」という「筋・ケジメ」の大切さを実感します。

戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものと信じ、白虎隊の会を設立して15年。“義”に生きた白虎隊士の思いを現代に伝えたい。

会誌第15号を皆さんの協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を戒めながら、老骨に鞭を打っています。

2025年4月 飯沼記

♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千元です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 □座記号番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページを変更しました：<http://byakkotai.club/>

検索